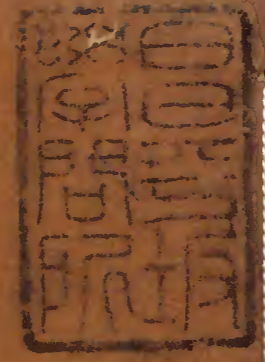


官刻 孝義錄 上野 下野 十一



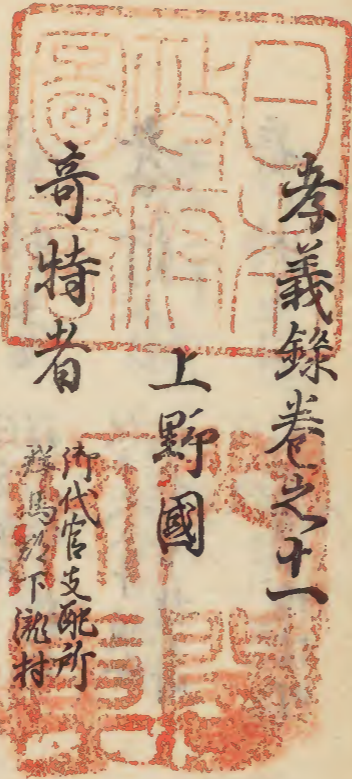
共五十一

庫文閣内		和
五	三	書類
七	四	
函	五	
二	五	冊
三	八	架
	六	號

内閣文庫	
番號	和 34586
冊數	50 (11)
函號	157 398



孝義錄卷之十一



上野國

奇特者

所代官支配所
群馬郡下流村

奇特者

同支配所
新田郡尾島村

孝行者

同支配所
邑樂郡板倉村

孝行者

同支配所

孝行者

同支配所
甘樂郡麻生村

○孝行者

同支配所
甘樂郡馬山村

孝義錄卷之十一

名主

天田善去勝

甲六歲

寛政五年
御褒賞

名主

又市

甲十歲

寛政六年
御褒賞

百姓

市原在馬

辛三歲

寛政六年
御褒賞

市原在妻

市原

甲一歲

同時
御褒賞

百姓

市原之助

辛三歲

寛政六年
御褒賞

百姓

市原

甲二歲

寛政六年
御褒賞

奇特者

日支配所
甘樂郡小平村

奇特者

日支配所

奇特者

日支配所

奇特者

日支配所

奇特者

日支配所
雄水郡板鼻宿

奇特者

日支配所
群馬郡上新田

孝行者

日頃
松平久五郎領分
館林城下杉木町

奇特者

日頃
館林城下塚脇町

奇特者

日頃
館林城下連雀町

孝行者

日頃
邑樂郡川俣村

孝行者

日頃
邑樂郡谷越村

孝行者

日頃
邑樂郡高根村

孝行者

日頃
邑樂郡谷越村

孝行者

日頃

孝行者

日頃
邑樂郡吉柳村

孝行者

日頃
邑樂郡小桑原村

元名主

新藏

寛政六年
時

名主

友左

時

年寄

時

百姓代

時

本陣

花内

時

名主

金七

時

町人

又市

時

又市伯父

又市

時

渡守

又市

時

百姓

又市

時

百姓

又市

時

百姓

又市

時

百姓

又市

時

孝行者

日頃 邑樂郡南大橋村

百姓

安去清

安永九年 褒美

孝行者

日頃 邑樂郡備前塚村

百姓新助牌

清花

天明元年 褒美

孝行者

日頃 館林城下塚場町

町人 津次右兵衛

忠重

天明四年 褒美

孝行者

日頃 館林城下朝町

町人

磯八

天明六年 褒美

孝行者

日頃 邑樂郡下早川田村

百姓 清右兵衛

左九郎

寛政元年 褒美

孝行者

日頃 勢多郡塚越村

百姓

何平

寛政元年 褒美

貞節者

日頃 勢多郡塚越村

百姓 伏見右衛門

さくら

寛政元年 褒美

孝行者

日頃 山田郡唯上村

百姓 忠七郎

治部左衛門

寛政元年 褒美

孝行者

日頃 日所

日

幸七

日時 褒美

愚孝者

日頃 邑樂郡埋塚村

高源寺下男

源五郎

寛政元年 褒美

孝行者

日頃 山田郡東長谷村

百姓 女左衛門

幸右衛門

寛政元年 褒美

孝行者

日頃 日所

幸右衛門

いし

日時 褒美

孝行者

日頃 館林城下飯沼町

町人 菅右衛門

美津

寛政元年 褒美

孝行者

日頃 日所

日頃

女川

日時 褒美

孝行者

日頃 館林城下其音町

町人 菅右衛門

之

寛政元年 褒美

孝行者

日頃 館林城下片町

町人 清助左衛門

清次郎

寛政元年 褒美

孝行者 日領

○孝行者 日領 鉸林城下並木町

孝行者 日領 鉸林城下本陣屋町

○孝行者 日領 鉸林城下目車町

孝行者 日領 鉸林城下目車町

孝行者 日領 鉸林城下場町

奇特者 日領 邑樂郡古越町

○孝行者 日領 邑樂郡高根村

奇特者 日領 松平吉蕃次領分

奇特者 日領 日樂郡下長根村

孝行者 日領 日樂郡上高根村

孝行者 日領 前田大和守領分

孝行者 日領 日樂郡大妻赤村

孝行者 日領 日樂郡黒尾村

孝行者 日領 松平登信領分

孝行者 日領 多胡郡多比良村

孝義録卷十一

日領

町人半助將

町人

町人

町人

町人

町人

百姓佐高馬

七下 日時 褒美

平右衛門 三十五歳 褒美 寛政元年

十右衛門 三十二歳 褒美 寛政元年

文右衛門 三十歳 褒美 寛政元年

九右衛門 二十八歳 褒美 寛政元年

七 三十歳 褒美 寛政元年

九右衛門 三十二歳 褒美 寛政元年

七 十四歳 褒美 寛政二年

若太市郎 死後 天明四年 褒美

若太市郎 五十六歳 天明四年 褒美

長原 三十三歳 天明七年 褒美

新太 二十六歳 寛政二年 褒美

伊左衛門 五十九歳 寛政二年 褒美

嘉助 死後 寛政二年 褒美

勇七 五十五歳 寛政元年 褒美

勘左衛門 六十五歳 寛政元年 褒美

孝行者 日所頌

孝行者 日所頌

孝行者 日所頌 形波郡下茂木村

孝行者 日所頌 松平大智之領分 群馬郡大久保村

孝行者 日所頌 群馬郡若搦田新町

忠義者 日所頌 群馬郡系之郷

孝行者 日所頌 群馬郡若搦田新町

孝行者 日所頌 群馬郡若搦田新町

貞節者 日所頌 群馬郡上泉村

孝行者 日所頌 群馬郡若搦田新町

孝行者 日所頌 群馬郡若搦田新町

孝行者 日所頌 群馬郡若搦田新町

孝行者 日所頌

奇特者 日所頌 群馬郡大久保村

奇特者 日所頌 群馬郡若搦田新町

奇特者 日所頌 群馬郡若搦田新町

勲勞者

法屋 日時 褒美

甚太郎 日時 褒美

孫四郎 寛政元年 褒美

十九郎 寶曆三年 褒美

利七 寶曆六年 褒美

七年 寶曆八年 褒美

六郎左衛門 寶曆十年 褒美

清太郎 明和四年 褒美

如月 明和六年 褒美

傳之助 明和六年 褒美

文右衛門 明和六年 褒美

三郎 安永五年 褒美

志由人 日時 褒美

中橋守左衛門 天明元年 褒美

三雲源大左衛門 天明元年 褒美

玄 寛政元年 褒美

百姓 町人 百姓 町人 百姓 町人 百姓

百姓若八妻

町人孫右衛門

町人政右衛門

百姓与越浪

名主

名主

百姓庄七郎賢者

孝行者

日領 野多郡八所村

百姓

小八

三十八歳

寛政元年 褒賞

孝行者

酒井越前守領分 群馬郡下高深村

百姓

法玄湯

四十七歳

明和元年 褒賞

孝行者

中根白根知行所 山田郡院田村

百姓

常寛

三十八歳

安永五年 褒賞

孝行者

進在太糸知行所 山田郡龍津村

百姓

六右衛門

四十四歳

明和七年 褒賞

孝行者

岩松玄庫知行所 新田郡下田村

百姓

仙助

三十三歳

天明二年 褒賞

孝行者法玄傳

清和師ハ甘樂郡馬山村乃百姓まの生れつと篤実ニ
 して農業と勵むるも七十にまるとはれりしを教ふ
 三十に遠く都のへん父乃十を馬のいをくれ母を二十卒
 あまのいさこふとまき病をうけ人を後ねとれ
 けさ六うゆとく志はらまなりく醫所り
 をたて佛神子いれり又妙業ありとこくめとけ
 ちやう小味め事の日取やこくらけを看病せし
 かくいをたつて農事ゆを怠りまふと隣まら
 の人く喜れよけりて看病の助けまらる

とその妻とびうをせけりされ更婦りり申とより
 母乃ぬ抱くむらぬくし耕作の事とて娘の此人
 と由めりいごとく母れをめくつひと終るとはうと妹
 なる人いりり縁きうて出で居りぬうと申持をり
 田地をふつ賣ふいもく母の事と求め今いりる地
 乃さふのむを娘難いもんめくあうけりよあゆ時
 ちせれ家うり火ゆりて急ぐとめらぬよとらうり
 きれと只母のこれい道まらぬ家財とらふ焼失
 せりもいりもせりよりむいふりぬきと孝ん程を
 まるいといけり村人あれとらうとてとてとてとてとてと

とうせつ上に穀物をとめりり清むるの貸仕事か
 とりり事として母はまはぬ農業を心乃まらぬ
 と由りてそ組合れりものとて村の人く後の妻と
 妹くけりいと由ぬやうみして姑をもうり
 しとて姑をけり病小侵さしとて外ちり人の世
 末はと嫌ひるまらぬ女乃事りはらとて
 くのつらたらまらぬ板に心を打きとてまらぬ
 と清むるの母りりの痛き事とらぬとて
 綿糸とて糸をまらぬとていりり人れはうあはぬ
 とわく娘とて人乃とて扱ひるまらぬ又離縁をまらぬ



ともい思ひしむことなれども家の業も怠りたるは
 孝道もどろりたるふさう悔れどもれをる真心乃
 りのちこれとてんかひする家のく人し蔬をりあ
 ざるや那らゆとと志つてひてどろり結ううと
 ちめいといはふ一人の男子どうとて病はゆり
 うせりりされと隣とてりこれ乳とあひくふとも
 おやそそいゆと銀難いや増りしゆと母れ看と病は
 ともりも忘らけと精力をりくをれあらと病とた
 たり活らるみりうの儀の人よ母と終ておと
 あつりこれいほと一日の内は又志しゆりて

食物ををりてと地よりぬとけとてひて女抱く夜
 更らまゝの繩とあひとらるるなりれのをはくつと
 主價といふ女も母の用ふと又昔よぬりてと屋
 小山あらとつと草花を植くたのめとあひり
 とけいせをゆり人も母よは衣服より夜のぬとま
 にあらとてこれとてせとたあつとを焚火のらと
 火箱あらとあつとて先世の孫孫とたつと世中の
 物清くぬるる物に力なりとりをり百錢二百銭と
 人よゆりてと人よぬる者ふとてつらぬとゆり
 ちめいといはふと相氣がらも我子と金銭よをれ



里とある人あるふらうけりさるる國乃控らけり
いし次村如との云葉りしむら子貢物と八人小先
立てぬる先又親族ととらり村人をも睦くけりけ
ふと支配勘定の格ゆては地をゆりしにおき先はる
若川業左衛門を友和印公よはえあけらるる
寛政六年九月清和帝よは復さるるを結ひぬる
光と昔より技師をとり結むとつり

孝行者ま川

ま川と館村の城下飯沼町よとある町人飯左衛門
なりりり一先ハ古志北高しとつり半とてかきゆく
貧くもあらうらう九ほりり此れ夫小治とて老たる
舅姑よ知と娘一人まてまけま川二人のまにて
それまひままたりとて親族をとりり人の組乃
ものもつりして幸に人けり後のまといふ
かつとす先をまよそれを後を便とばかりぬへけり
心もまらぬ人とむらまは舅姑の心をあえもむら
ふつりとてけり次かま舅姑仁存馬ハはまりり
けり小病病とてまを控らにくれと看病よんを
してまぬるもあうとて甲斐なるかきぬる
齡七十回あてうせぬ姑と今七十に回まぬるまぬる

老乃男女ありて夫のふせありあつさり申風のなう
小きやむらとむを昔にけり婦と腰うらむりけあゆ
さへをえしむらむらけあつてたけむりしむ女れもふら
是師も助もくつれをまけし人よて念は女抱し
二使又清きもさるあつと一人目と思ひて遣ひしむ
ぬあらに同じ城は音町は十免り申けり親里たあら
兄乃直なきらり許小姑とくしありをよとさるんは昔
の助けをよとさるんしむ親族組合のぬまをさる
見けるよ見のけりしむらむら母乃むらとむらとむら
を思ひしむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

申すに今けり小きさるん事我を思ふあり次をさ
家賊とらりむらむらむらむらむらむらむらむらむら
さるんむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
かりとらり人教と二十もりにさるんむらむら今ハ親族の得
小形てむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
つらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
子業とらりむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
多くれ業をさるんむらむらむらむらむらむらむらむら
りの賃後ふれと姑のぬらむらむらむらむらむらむら
あつりとさ貴ひしむらむらむらむらむらむらむらむら

孝義録卷十一

火を移してはらせけと程火危くとも子業も
やれと証名なりと是の目人目と悲ひてうへ乃新
のりふふまゝあゆむと世に安んずるは火柱を設け
けりうまゝともまゝとて進んで只ハ我形は昔衣
たのとち指とりあつた合せく海とてやと考り
組合乃ともれよつひはれりし何うに火事あらん
とれ我子ありめくは姑といたき道通ん事え
まゝあつともくつひと心まゝつひと終ひかふ折え
何事と申捨てもとまゝは助もあつせんたつといふ
是れとまじいはつたに安んずるはうとてなまふまゝ

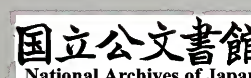
日々に徳巻作の暇あれは袋とぬひ取ら賃仕事
あつてふ子をいふまゝとて姑の見て我もともと業と
助けると老乃よりも賃法と取入とて海りしと
何らさるとくともまげるとてまゝは脱つをりま
姑とまじいゝ念頭あるとあふ人とも小涙をりしと
程りしとそかく孝養れつとまゝをれはおそら知
と及回し取れ台裁町とて先ら流す乃九右馬とて
は又助けると男の死やく後らともあは出る事
たつて只姑のうらとらにのりし家とれは九右馬も流す
感しと野原をともり新事あつてはしとて人の

一、浅野の山焼て妙梅りしあるをいふ事此を傳
 へて人たうりしとて後河内右衛門守り賜封せり
 此を伝主も褒美とて賞及先帝の正月に
 兼とめく人娘乃とつと種と身おつと祖母と母と
 共ゆやうたうととめ養をとりとて

孝行者平吉師

平太師の被材の城下此並其所より先年平助の子也
 父はとく六十回奉たうりつと此を父の如く
 とめられたれと考へ奥代高し平吉師の孫あること
 業としてを渡りもまいつとつと父討り酒飯

ぬきあ日く小のさけうさうはれをわつとせり
 此のいふは次第に酔わると限りとちくはさう
 てさういふ人もおれよ大さうさうとあつと中つ
 置れを平吉師の扱ひとてさうをれぬく酔る
 小かもさうさう父も平吉師のいはる事さう
 けつと又酔れぬあまりに様つとていふ平太師
 行なと物くさ合しと人つとほほさうて笑ひる事
 いさう物さるさ由も次夜も酒の心知をりて
 中とあも外に酔らさうすとの酔さる時と篤実たう
 ぬるれとさうと酒を酒まけとてさうさう



又ゆれとくさらにて先づ記又と今に農事
 勤ると好きてまゝに耕作しとてちかき世に
 手業に出るはれ農具等とは畑はつりて父乃
 昔と昔は父の畑よりつりて疲れしとて父は
 とて小洒着たて来りてとてあをせとせしふより
 明りしは父家にならされ父耕せしとて
 あらんといふもたたく進んたは酒を飲せしと
 先くつて後に出しとてはつとてい若くは信ひ
 ぬ又家業と勤むとてつとてあ修へてつとて後
 父乃とつとつと酒の料よめてぬとてつとつと

かのあつては由よ言ふとて出さば又妻ともい
 ともいされて父の衣乃洗濯を賃物して人よを
 我乃十月の丁よりあつとつとあ早物のとつと
 とつと顔より稱羨して寛政元年十二月より
 兼成あつとつとせ

孝行者ちよ

ちよと邑樂郡高根村の百姓依之若也、養女たつと
 ちよと及下野因梁田郡羽前村よとつと荒助とつと
 ちよの娘たつとつと八歳より上よりつとつと
 十四歳めとつとける住女たつとつと田地一畝とつと

持是れとて暇下田よりあちをいひつゝ一年あつた
 貢由納りゆさうしにあつたに於て勤たけ身とらへて
 農事さへいよ任を付持しとれ兄なる清助はそれよ
 うせ申 楚れ々妻今ふをり先とありて母家より
 一うこれと又病むらゆくあふ乃ち事業もあつらう
 りふをらよ切さ身あつた父と伯母とふ急須よは之
 とれ暇よは是袋とゆふ業とりとあ世後日れ助を
 先のぬ志うあよ父と寛政元年れあつた金丸と病よ
 ふけしと直敷者病よゆとをそく曉下ふふを
 らひ其村ある法身乃社より一七日あつてく立願せ
 一うその志病ゆあや日にうゆく志うとあふふえれと
 老乃身あれと全く愈らさゆとあつたきかく
 とあまれへあよあゆめあつたよつあをてて父に
 綿への衣をせまり一く思ひつと何乃ちたもあつ
 らぬとてせうあとい物を伯母きて我病の姓をわ小
 少つとと檄織んとつむけしとあつたよ乃病よ
 られよあつたあゆめあつたよあつたよあつたよ
 一あよとあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 出来てきよう一箱のききとあつたあつたあつたあ
 して織物とととみえつたあつたあつたあつたあ

一うその志病ゆあや日にうゆく志うとあふふえれと
 老乃身あれと全く愈らさゆとあつたきかく
 とあまれへあよあゆめあつたよつあをてて父に
 綿への衣をせまり一く思ひつと何乃ちたもあつ
 らぬとてせうあとい物を伯母きて我病の姓をわ小
 少つとと檄織んとつむけしとあつたよ乃病よ
 られよあつたあゆめあつたよあつたよあつたよ
 一あよとあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 出来てきよう一箱のききとあつたあつたあつたあ
 して織物とととみえつたあつたあつたあつたあ



此と云はては教へてうけあはせたるを藍染
 ぬすむとせしむるやんといふと云は貴おふらんや
 思ひしや黒染よせよといふ人しつらるに
 後のそ免ありつらるんを我の業の料とり
 藍染よせしめけるをれより後をうけぬるも
 其綿と減一五もたぬと云ふをうけて是儘に
 ぬすむとせしむるを求むつらるに批刺と云ふ
 又新たうといふらまて何れと云はききぬ我身乃
 骨と云はらふ小くつらるし其後乃十月父の病
 俄小きうては井よ空くありまれの悲しむるは

夫人にもあはれなりき早九日の候伯母乃
 此の病に
 向まうぶと云はてにその事ありと云ふ
 歎こしと候指作りと云はぬと云はれを捧げ中
 さんそ時乃ありと云は集めと云ふよたうそ喜提
 寺小きうつら父のうきふ後伯母といふを
 衣服のる小きうつらと云はくよんといはき又地火
 のゆへと云はありと云はて夕飯をとりぬるをりて
 淋くまはぬと云はて志と云はれ内むらうそ
 ぬすむと云はぬと云は親族乃ぬすむと云は
 系と云はるる八筋と云は是儘と云はぬらり胡と云は



市立の爲小とこれの爲に曉とて焚火してぬぐ
おあけをゆきおあけぬ故附伯母乃つふなり今
あそびく涼切ならぬ抱ふつひぬる事悦ましくは
つるつとと幸若此男とりあかしてあて芳若とま
さんとの親里に帰せしとすとて此をたよとかくと
あまふは家法しんとあまふたれいつのれ難
とあせしとてあらんとはりひさうねとせんた
んまひまう結ひうとせむけらまあまきとあ
しくかくゆえやうおれあをゆとれ里小見せ
まめくあうくくく人くく移とらとれはる

頃主にはあえまの復あところせつハ寛政二年二月の
夏たのりよ

下野國

○孝行者

清代宮文配所
芳賀郡西宮村上組

○孝行者

同文配所
形次郡東宮掛村

奇特者

同文配所
郡賀郡板橋村

孝行者

同文配所
形次郡百村

○孝行者

同文配所
芳賀郡荒町

孝行者

同文配所
芳賀郡志志町

奇特者

同文配所
形次郡北原六村

孝義錄卷十一

百姓

利八

五十歲

明和五年
清養長

百姓

利友

四十歲

天明二年
清養長

百姓

伊左

五十歲

天明七年
清養長

百姓

林

歲不知

天明八年
清養長

百姓

佐右

二十歲

寬政六年
清養長

荒地紀遠方人集會保次八百姓

徳右

四十歲

寬政六年
清養長

八所

五十歲

寬政六年
清養長

名主

奇特者

日支配所

孝行者

日支配所
那波郡佐佐木村

奇特者

日支配所
那波郡引田村

孝行者

日支配所
那波郡石倉町

孝行者

日支配所
那波郡板橋町

孝行者

日支配所
那波郡板橋町

孝行者

日支配所
那波郡芳沼村

奇特者

日支配所
那波郡大工町

孝行者

日支配所
那波郡肥後守所領所
佐賀郡横川村

農業出籍

一橋殿領分
芳賀郡行下村

奇特者

日支配所
佐賀郡上高根沢村

奇特者

日支配所
佐賀郡上高根沢村

孝行者

日支配所
戸田郡幡守領分
那波郡築津村

農業出籍

日支配所
那波郡築津村

孝行者

日支配所
那波郡東刑部村

孝行者

日支配所
那波郡東刑部村

勳爵

日時
天保元年

源六

寛政七年

金丸

天明六年

若左衛門

天明八年

佐左衛門

寛政元年

源六

寛政元年

平四郎

寛政元年

長右衛門

寛政元年

義助

天明六年

九人

天明五年

河津半之助

天明六年

宇津控右衛門

天明六年

林四郎

天明五年

与平次

安永五年

在助

天明元年

紋七

天明元年

孝義長録卷二十一

孝行者 日頃 塩谷郡高佐村

孝行者 日頃 河内郡横心村

孝行者 日頃 塩谷郡民家村

孝行者 日頃 芳賀郡小里村

孝行者 日頃 河内郡東河村

孝行者 日頃

孝行者 日頃

孝行者 日頃 宇津宮城下下石町

孝行者 日頃

孝行者 日頃 多摩郡波守領分 柳野郡下稻葉村

奇特者 日頃 塩谷郡國台村

奇特者 日頃 太保山城守領分 那波郡三郷村

奇特者 日頃 那波郡大木次村

孝行者 日頃 那波郡大木次村

孝行者 日頃

百姓 善右衛門 天明元年 褒賞

百姓 長茂 天明元年 褒賞

百姓 善左衛門 天明二年 褒賞

百姓 善右衛門 天明三年 褒賞

百姓 仲右衛門 日時 褒賞

百姓 乙右衛門 日時 褒賞

百姓 善左衛門 天明元年 褒賞

町人借屋位 善左衛門 天明元年 褒賞

町人新登下男 善左衛門 日時 褒賞

百姓 友七 寛政元年 褒賞

百姓 善右衛門 安永九年 褒賞

百姓 善右衛門 天明七年 褒賞

百姓 善右衛門 天明四年 褒賞

百姓 善右衛門 天明四年 褒賞

百姓 善右衛門 天明四年 褒賞

百姓 善右衛門 天明六年 褒賞

百姓 善右衛門 日時 褒賞

奇特者

日領 船次船酒三村元町

百姓

孫平

寛政元年

○孝行者

日領 烏山磯下全井町

百姓 室屋島娘

孫平

寛政元年

奇特者

日領 烏山磯下中町

百姓

板橋安友

日時

孝行者

大関住徳守領分 船次船寺子組秋山沢村

百姓

源次郎

明和五年

孝行者

日領 日所

百姓

源次郎

日時

孝行者

日領 船次船寺子組自井村

百姓 孫八下男

長八

明和五年

忠義者

日領 船次船次賀門村

百姓

長八

明和五年

孝行者

日領 船次船北上村

百姓

孫平

明和五年

孝行者

日領 船次船白町

百姓

阿久津茂吉

明和五年

孝行者

日領 船次船久世赤村

百姓

半七

明和五年

奇特者

日領 船次船次賀門村

百姓 久次郎下男

若六

明和五年

忠義者

日領 船次船次賀門村

百姓 幸助下男

新助

明和五年

忠義者

日領 船次船次賀門村

百姓

若六

明和五年

孝行者

日領 船次船寺子組法師物村

百姓 八之丞

八之丞

明和五年

孝行者

日領 日所

百姓 八之丞

門兵衛

日時

孝行者

日領 日所

百姓 由八

由八

日時

孝行録卷之三十一

○風俗宜者 日領 船次郡言久組弓落村

○風俗宜者 日領 百姓

○風俗宜者 日領 百姓 源七 辛一歲 明和五年

○風俗宜者 日領 百姓 八右馬 甲六歲 日時

○風俗宜者 日領 百姓 甚之清 辛八歲 日時

○風俗宜者 日領 百姓 植八 辛八歲 日時

○風俗宜者 日領 百姓 長次郎 二十七歲 日時

○風俗宜者 日領 百姓 幼右馬 甲六歲 日時

忠孝者 日領 百姓 傳左馬 甲六歲 明和五年

孝行者 日領 百姓 兵益 甲三歲 明和五年

高特者 日領 百姓 市左馬 甲七歲 明和五年

孝行者 日領 百姓 孫左馬 甲四歲 明和五年

孝行者 日領 百姓 太序 十四歲 明和五年

孝行者 日領 百姓 五之清 六十歲 明和五年

孝行者 日領 百姓 長八 甲七歲 日時

孝行者 日領 百姓 仲右馬 甲七歲 明和六年

孝行者

日領 形次於越地沃

百姓

三右馬

明和六年 褒賞

忠孝者

日領 形次於左本村

百姓

勤六

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次於寄居組砂子村

百姓

六左馬

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次於寄居組入山村

百姓

仁右馬

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次於田町

百姓

三津

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次於寄居組境明祇村

百姓

傳右馬

明和六年 褒賞

貞節者

日領 形次於河本村

百姓

乙右

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次於河本村

百姓

世左

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次於河本町

百姓

平助

明和六年 褒賞

孝行者

日領 芳賀於大羽村

百姓

次左衛

明和六年 褒賞

孝行者

日領 形次於橋田村

百姓

三津

明和七年 褒賞

孝行者

日領 形次於植世系村

百姓

三右

明和七年 褒賞

孝行者

日領 形次於南金丸村

百姓

源右馬

明和七年 褒賞

孝行者

日領 日所

百姓

志次

日時 褒賞

奇特者

日領 形次於寺子組金田村

百姓

定七

明和七年 褒賞

貞節者

日領 形次於橋田村

百姓

三左

明和七年 褒賞

孝行者

日領 形次於川上祖南方村

孝行者

日領 形次於大多野村

孝行者

日領 形次於寺岩村

孝行者

日領 形次於向町

孝行者

日領 形次於羽田村

孝行者

日領 形次於羽田村

孝行者

日領 芳賀郡稻毛田村

孝行者

日領 形次於湯屋村

貞節者

日領 形次於大久保村

奇特者

日領 形次於埴畑村

孝行者

日領 形次於大塚村

孝行者

日領 形次於大塚村

忠義者

日領 形次於次賀川村

忠義者

日領 形次於大塚村

奇特者

日領 形次於稻沢村

孝行者

日領 形次於田町

百姓

辰右馬

明和八年 褒賞

百姓

辰右馬

明和八年 褒賞

百姓

辰右馬

明和八年 褒賞

百姓

辰右馬

明和八年 褒賞

百姓

辰右馬

明和八年 褒賞

百姓

辰右馬

安永元年 褒賞

百姓

辰右馬

安永元年 褒賞

百姓

辰右馬

安永二年 褒賞

百姓

辰右馬

安永二年 褒賞

百姓

辰右馬

安永二年 褒賞

百姓

辰右馬

安永二年 褒賞

源七

辰右馬

日時 褒賞

百姓

辰右馬

安永三年 褒賞

武四郎

辰右馬

日時 褒賞

百姓

辰右馬

安永三年 褒賞

町人

辰右馬

安永四年 褒賞

源七

辰右馬

安永四年 褒賞

貞節者

日領 船次初門上村

百姓五十為妻

三十五歳

安永四年 褒美

貞節者

日領 船次初門上村

百姓五十為妻

三十二歳

安永四年 褒美

貞節者

日領 船次初賀門村

百姓金三為妻

二十九歳

安永四年 褒美

孝行者

日領 芳賀初稻名田村

百姓

二十九歳

安永五年 褒美

孝行者

日領 日所

熱心為妻

二十九歳

日時 褒美

貞節者

日領 船次初落合村

百姓新為妻

二十六歳

安永五年 褒美

兄弟睦者

日領 芳賀初大田村

百姓

二十六歳

安永七年 褒美

奇特者

日領 芳賀初清水村

百姓

四十一歳

安永七年 褒美

孝行者

日領 芳賀初生田村

百姓

五十歳

安永八年 褒美

孝行者

日領 芳賀初下流沢村

百姓在甲為妻

二十八歳

安永八年 褒美

孝行者

日領 船次初稻沢村

百姓五十為妻

二十九歳

天明元年 褒美

忠義者

日領 船次初古久組生儀村

百姓長子為下男

三十三歳

天明元年 褒美

貞節者

日領 船次初田町

百姓勝女為妻

三十四歳

天明元年 褒美

貞節者

日領 船次初出立賀村

百姓源女為妻

三十九歳

天明元年 褒美

孝行者

日領 船次初奥沢村

百姓

三十三歳

天明元年 褒美

孝行者

日領 日所

依養為妻

三十三歳

日時 褒美

孝義録卷十一

二十四

孝行者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

文右衛門

天明九年 褒美

忠義者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

幼六

天明三年 褒美

忠義者

日領 那波那寺系組成込村

幼六

幼六

日時 褒美

忠義者

日領 那波那寺系組成込村

日時

在七

日時 褒美

○奇特者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

在七

天明四年 褒美

貞節者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

在七

天明六年 褒美

奇特者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

八之丞

天明六年 褒美

奇特者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

久左衛門

天明六年 褒美

孝行者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

源益

天明六年 褒美

孝行者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

源助

天明六年 褒美

孝行者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

龜八

天明六年 褒美

孝行者

日領 那波那寺系組成込村

龜八妻

甲辰

日時 褒美

孝行者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

田助

天明六年 褒美

孝行者

日領 那波那寺系組成込村

源方小出源左衛門妻

乙辰

天明七年 褒美

孝行者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

源右衛門

天明七年 褒美

家内睦者

日領 那波那寺系組成込村

百姓

太左衛門

天明七年 褒美

家内睦者

日所

大庄

太七

日時

孝行者

日所

是惟室并平在為妻

三十七歲

天明七年

孝行者

日所

是惟室并平在為妻

三十七歲

天明七年

孝行者

日所

町人橋本新屋為妻

三十六歲

天明七年

奇特者

日所

百姓

市有為

天明八年

孝行者

日所

百姓忠志為妻

三十七歲

天明八年

孝行者

日所

町人室古為娘

三十三歲

天明八年

貞節者

日所

百姓新屋為妻

四十五歲

天明八年

孝行者

大田系和彈身領分
大田系城下町

町人

岩室為

安永八年

農業出籍

日所
於次於時北村

岩室為父

三十九歲

天明二年

奇特者

日所
陸谷親守津野村

百姓津守為妹

三十四歲

天明五年

奇特者

日所

百姓

三十七歲

日時

孝行者

日所
於次於中田村

百姓

古之為

天明六年

孝行者

日所

百姓

三十一歲

日時

孝行者

日所
塩谷親高河津村

百姓

熱右為

天明六年

孝行者

日所
芳賀親祖井村

百姓

要助

寛政元年

孝義録卷十一

三六

農業者 日領 芳野郡祖母井村

貞節者 日領 船次郡上井上村

孝行者 日領 船次郡松原村

孝行者 日領 大田郡藏下寺町

孝行者 日領 戶田大坂町領分 郡安郡朽木領内村

奇特者 日領 船次郡新井村

奇特者 日領 所領

風俗貞者 日領 所領

孝行者 日領 船次郡朽木上町

孝行者 日領 所領

孝行者 日領 船次郡朽木中町

奇特者 日領 船次郡朽木中町

孝行者 日領 所領

孝行者 日領 船次郡朽木中町

貞節者 日領 船次郡朽木下町

百姓

百姓 船次郡八幡家

百姓

町人 養老島妻

百姓

居士

僧尼

年次郎 寛政二年 褒賞

年次郎 七十九歳 寛政二年 褒賞

年次郎 五十六歳 寛政二年 褒賞

年次郎 四十七歳 寛政二年 褒賞

年次郎 三十歳 寛政二年 褒賞

年次郎 六十七歳 享保八年 褒賞

年次郎 六十三歳 天明七年 褒賞

年次郎 六十六歳 日時 褒賞

源 寛政二年 褒賞

年次郎 三十三歳 日時 褒賞

年次郎 三十三歳 寛政二年 褒賞

年次郎 三十三歳 寛政二年 褒賞

年次郎 三十三歳 日時 褒賞

年次郎 三十三歳 日時 褒賞

年次郎 三十三歳 寛政二年 褒賞

年次郎 三十三歳 寛政二年 褒賞

孝行者

日領 坂賀那柄木下町

百姓平右兵衛

瀨長湯

寛政二年

孝行者

日領 坂賀那柄木横町

醫者松平宗孫

徳治

寛政二年

孝行者

日領 坂賀那柄木下町

百姓金松妻

の

寛政二年

孝行者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓

定七

寛政二年

孝行者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓孫七郎

茂八

寛政二年

孝行者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓

孫七

寛政二年

奇特者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓

兵七

寛政二年

奇特者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓

友左

寛政二年

奇特者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓

久左

寛政二年

奇特者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓久左兵衛

内

寛政二年

奇特者

日領 足利郡五箇新田下町

百姓茂左兵衛

助右

寛政二年

奇特者

日領 坂賀那柄木素田村

名主

伊左

寛政二年

奇特者

日領 坂賀那柄木上町

百姓

庄助

寛政二年

奇特者

日領 坂賀那柄木下町

年寄

市兵衛

寛政二年

奇特者

日領 坂賀那柄木下町

年寄

弥次郎

寛政二年

奇特者

日領 坂賀那柄木下町

年寄

卯右

寛政二年

奇特者 水戸教領分 形次郎茂村

奇特者 日所領

風俗宜者 日所領 太布坪

奇特者 日所領 形次郎馬村

風俗宜者 日所領

奇特者 日所領 形次郎馬村

奇特者 日所領 形次郎和見村

奇特者 日所領 形次郎馬村

奇特者 日所領 形次郎馬村

奇特者 日所領 形次郎久津村

奇特者 日所領 形次郎太内村

農業出者 日所領 形次郎太内村

農業出者 日所領 形次郎吉田上

孝行者 日所領 形次郎小砂村

孝行者 日所領 形次郎小砂村

庄屋

先子庄屋

百姓

庄屋

百姓

百姓

百姓

庄屋

庄屋

押卷番

百姓

百姓

百姓

傳九馬 寶曆元年 四十六歲

祖次共 日時 卷

百姓 日時 卷

儀重 寶曆元年 卷 七十三歲

熱百姓 日時 卷

与一在馬 寶曆元年 卷 七十歲

仙之儀 寶曆元年 卷 七十歲

若右馬 寶曆元年 卷 六十二歲

与一在馬 寶曆元年 卷 三十三歲

市右馬 寶曆元年 卷 二十八歲

沐敷馬 明和四年 卷 六十一歲

平六 安永五年 卷 五十五歲

平五郎 安永五年 卷 四十四歲

平七 安永五年 卷 六十二歲

左重 安永五年 卷 三十三歲

若右 安永五年 卷 四十一歲

貞節者

同領 那波那和見村

百姓左七後家

三十一

安永五年 褒賞

奇特者

同領 那波那武井村

年壽

三十二

天明元年 褒賞

孝行者

同領 那波那三河又新田

百姓

三十三

天明元年 褒賞

風俗宜者

同領 那波那久那波村川邊坪

百姓

三十四

天明元年 褒賞

農業出精

同領 那波那久那波村

百姓

三十五

天明元年 褒賞

農業出精

同領 那波那富山村

百姓

三十六

天明元年 褒賞

農業出精

同領 那波那富山村

百姓

三十七

天明元年 褒賞

○孝行者

同領 那波那馬以村

百姓

三十八

天明二年 褒賞

農業出精

同領 那波那太内村

百姓

三十九

天明二年 褒賞

忠義者

井伊那那以領分 安蘇那大内町

百姓左有為後家下女

四十

享保五年 褒賞

孝行者

同領 安蘇那小倉町

百姓左有為後家

四十一

寶曆四年 褒賞

孝行者

同領 安蘇那大内町

百姓

四十二

明和八年 褒賞

孝行者

同領 同領

百姓左有為

四十三

同時 褒賞

孝行者

同領 安蘇那小倉町

百姓新七妻

四十四

安永三年 褒賞

孝行者

同領 安蘇那天明町

百姓左有為

四十五

天明八年 褒賞

孝行者

同領 同領

百姓左有為

四十六

同時 褒賞

孝行者

同傾
安蘇郡天明町

孝行者

同傾
同所

孝行者

同傾
松平大和守傾分
松平郡赤松村

孝行者

同傾
六井大次郎傾分
寒門郡寒門村

孝行者

同傾
松平郡上宮村

孝行者

同傾
同所

孝行者

同傾
松平郡友部村

孝行者

同傾
松平郡下尾村

孝行者

同傾
松平久五郎傾分
松平郡萬生町

○

孝行者

同傾
同所

孝行者

同傾
同所

孝行者

同傾
同所

忠孝者

同傾
松平郡富田村

孝行者

同傾
安蘇郡並木村

孝行者

同傾
同所

孝行者

同傾
同所

忠七

三十八歲
寬政三年
褒美

忠七

三十八歲
日時
褒美

伊助

三十八歲
明和七年
褒美

伊助

三十八歲
明和四年
褒美

清右衛門

三十八歲
天明八年
褒美

忠七

三十八歲
日時
褒美

伊助

三十八歲
寬政元年
褒美

伊助

三十八歲
寬政元年
褒美

新之丞

三十八歲
寬政二年
褒美

伊助

三十八歲
日時
褒美

八

三十八歲
日時
褒美

友八

三十八歲
日時
褒美

鉄次郎

三十八歲
明和八年
褒美

徳次郎

三十八歲
天明六年
褒美

伊助

三十八歲
日時
褒美

伊助

三十八歲
日時
褒美

農業出籍
久世段守領分
都賀郡北武井村

農業出籍
日領
河内郡西藤原村

孝行者
日領
都賀郡都賀村

孝行者
日領
都賀郡志保村

○ 奇特者
水建日向守領分
都賀郡東水沼村

奇特者
日領
都賀郡小沼村

奇特者
日領
都賀郡三坂村

孝行者
日領
都賀郡後繩村

奇特者
日領
都賀郡坊井村

孝行者
日領
都賀郡高岡村

孝行者
日領
都賀郡高岡村

農業出籍
日領
都賀郡上水沼村

兄弟睦者
在連門左衛門督領分
都賀郡在連門河原町

貞節者
日領
都賀郡在連門東町

孝行者
日領
都賀郡在連門上町

百姓

百姓

百姓
次子孫

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓
幼子孫

百姓

百姓

百姓
次子孫

町人
孫子孫

町人

元右衛門
卒四歳
寶曆七年

平右衛門
卒四歳
寶曆八年

幸右衛門
卒七歳
寛政元年

武右衛門
卒七歳
寛政二年

八右衛門
卒一歳
天明四年

新右衛門
卒四歳
明和五年

徳右衛門
卒八歳
明和五年

孫右衛門
卒九歳
明和八年

利助
卒一歳
安永三年

徳次郎
卒一歳
安永九年

くわ
卒一歳
日時

次郎
卒一歳
寛政二年

金次郎
卒一歳
寛政二年

加次郎
卒一歳
寛保三年

幼助
卒一歳
明和七年

次郎
卒一歳
寛政四年

孝行者 日所

負節者 板倉主税助知行所 河内郡上三門村

孝行者 畠山三右衛門知行所 郡家郡下南广村

孝行者 古井左門知行所 足利郡松尾村

孝行者 横山鐵之助知行所 郡家郡新富村

農業出稼 日知行所 郡家郡金井村

孝行者 日知行所 郡家郡新富村

孝行者 日知行所 郡家郡新富村

奇特者 福原内通知行所 郡家郡沢村

奇特者 日知行所 郡家郡沢村

奇特者 日知行所 郡家郡沢村

農業出稼 日知行所 郡家郡沢村

奇特者 日知行所 郡家郡得田村

奇特者 日知行所 郡家郡佐久山岩

孝行者 日知行所 郡家郡佐久山岩

次為妻

百姓 是古為妻

百姓 万次存母

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

年寄

百姓

百姓

百姓

百姓

名主

年寄

町人 於次屋

志内 日時 褒美

孝 三三歳 天明七年 褒美

与 三三歳 天明八年 褒美

清助 三三歳 天明七年 褒美

住次 三三歳 年不知 褒美

次右衛門 三三歳 寛保三年 褒美

次右衛門 三三歳 寛政元年 褒美

位七 三三歳 寛政二年 褒美

要次 三三歳 寛政三年 褒美

右右衛門 三三歳 天明三年 褒美

由右衛門 三三歳 天明三年 褒美

万右衛門 三三歳 天明三年 褒美

七右衛門 三三歳 天明五年 褒美

利右衛門 三三歳 天明七年 褒美

次右衛門 三三歳 天明八年 褒美

若右 三三歳 天明八年 褒美

奇特者

大波佐法守知行所
於實於中居村

大庄屋

飯塚六右衛門
四八歲

天明三年
癸亥

孝行者

同知行所
於實於茂呂島

百姓政七妻

津屋
二十六歲

天明七年
癸亥

貞節者

同知行所
於實於茂呂島

百姓作平後家

上光
九三歲

天明七年
癸亥

孝行者

大石系頼母知行所
於實於森田町

百姓信四郎時

伊助
二七歲

明和五年
癸亥

孝行者

同知行所
於實於森田町

百姓源次郎源

忠
六三歲

天明四年
癸亥

奇特者

那次五知行所
於實於福系村

百姓

文平
三九歲

明和七年
癸亥

奇特者

日知行所
於實於福系村

百姓

伊右衛門
四十二歲

天明四年
癸亥

孝行者

橫濱後河守知行所
於實於下美村

百姓平吉源

小
四十二歲

天明二年
癸亥

孝行者

同知行所
同所

組改

庄右馬
四十五歲

天明三年
癸亥

孝行者

同知行所
同所

本庄身組改是也

庄三郎
四十八歲

寛政五年
癸亥

孝行者利八

利八は芳賀郡西高橋村上組の百姓なり。四十より
これ父は金右衛門といふに石はうりもらてありし
に後父母とも此れ病しゆして田をも畑をも賣
つて此れを以て地をうりて人此れをうりて
とて此れを以て利八をせんといふに
是乃用とて人此れを以て父母をといひ
是れ又きりわたりとて看病をせしむ
寛文二年のころ父もつゝもよき病を
うせしとて病しゆにあり又されり

け村の内なる甚き病とつらみ此より利ハる妹を嫁せしむ
 りこれとまじりて又母をくゆくのつらみすあまひ父乃全
 有痛の月をたててをたかむるぬ歎きのう人よりと
 りり多病より人あまを病く相親乃やうにまじりけり
 と母母日あまれりけり我家はむい人より一に三人
 中を病人より外に女抱をくけりのをけし利ハ
 かくてあハ奉てせんあまをくあふ小ハ小作をく人の
 田作を作り又日くつらみに産をれそのあまをく
 食せし一飯のうらとむつらとせし二人よを先をれ
 弟をき暑のいふつらく家業を励む弟あはつれを
 悔と人より二人よは時く私衣服をくせ冬よりあまも
 病乃相とまのゆえあまねと相ふ夕ちうり落葉は
 かくて焚火をまうけ友のあまを救せふまうこれ
 又まを病とむりて救やりとふくようを眠るく女抱く
 けり病よ母はあま七十代老とむりてつらみと人
 をやまわねと祓佛よまうて後りおとひこれ
 ハ孝道の極とてたう春おひあまをくあままたふ
 事ふし村乃内の人も其孝行を感してあま
 ちうけり人まを妻乃妹をもあまけしとむくま
 けり人よあまをむい人あまをくまうまうまうまう
 けり

に〜〜〜その法々母乃其母もをろ〜に〜〜
 由〜〜〜け〜〜〜の法々母乃其母もをろ〜に〜〜
 人〜〜〜〜〜を戒び〜〜〜利八を学ば〜〜と
 と稱〜〜〜又母〜〜村乃組隊あり利左馬利八
 兄〜〜〜利八は村の方在あり件平表〜〜わ〜
 身其銀冠を〜〜〜利合方を〜〜〜と〜〜
 母も利八も母と人の法々は〜〜〜も〜
 人あれ〜〜の助けを〜〜〜事〜〜〜
 何〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 何〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

どう御ふ二人のやち〜〜〜と〜〜〜
 一人は〜〜〜もあ〜〜〜け〜〜〜明和六年十月
 此地乃清代官物利左十郎が〜〜〜
 銀冠〜〜〜也〜〜〜

孝行者利左馬

利左馬は那須郡東智村の百姓なりつて又農業に
 意〜〜〜守控を〜〜〜
 も〜〜〜
 さ〜〜〜
 十左馬は〜〜〜



在下にまことひていつとせられぬや一里いそがふ親族乃
 名左馬とてふうりたに父をうつてを日お枕とてふ事
 看病しされと甲斐たてふ法由りうせめくうを
 主歎といふんこまをそみえくかきて十六年よあり
 一付祖母の病はゆめを父の屋敷に附りて
 ちうけんとそく好まされはふれと老の身はそく
 くこわらんをと思ひやりくはんをそ我肌とめて
 けそく父その女抱ゆるむとちうりなせとおろしそ
 まゆれもむせうくありぬまは二人の母は孝け
 せしに孝は病くらむく月毎は一二度そより八個に
 されぬるばおやのりくまをそく自由ちうりそけ
 と利左馬の世をたふり候く歎とて母へをばらり
 志うせはそれ里にたまいにそふ石の地帯へ一七日の
 うちうふく候うてそく人そけう好くぬる烟草は
 本ふたらあ一こまいのけら志向しやソく程
 もちうく急してそ後ハそそあちやまそるとまの
 かくあまのそそや七十の乃齡とそまこつとそ年
 まうりそれより身は自在あう候そくく候あり
 ちうり利左馬の日夜こつこふに母の裁名とてハ
 さるやうによを服用起休のまひ下るとそはよ父抱く

三十一

服業ハ知レ乃衣を以て代入多を以寒暑と云も
 我力をきくに也入之頃母の事此を思ひつけ
 ぬ又金カカして母の室を以て入ははるまゆらうと
 不見らさぬよもくちり一もをんと居るうらうり
 耕作或々未ありふとよ出る日と志しくつらふ
 女をとしひ胡夕此食も母の好みゆめと云はれ十
 八年をわうさ此妻を逐入るふつ母れんはかたをぬと
 七多しりうさこよ縁きりて出るなり外よ二人乃
 兄弟もちりかきもめ、農事に怠るへくこく親と
 人くはの事とじりんやとつひを道とわたりて孝
 義此婦けよまうへくこくもさうりさきめく母に孝ふ
 ぶ乃とまうす親族よりり先一村隣里うと眩ひ
 けら種日け一御利左衛門うけひよ智ひて風俗好よ
 う後く四甲くこふんされとけ地の代友け六希
 左衛門こまうへ公にすえにけけく銀をこまく此廢
 賞と給るうへハ元治二年六月の事なりと云

孝行者佐左衛門

佐左衛門ハ芳賀郡荒町の百姓なり初名と幸吉也
 少くして石めまう此田をりらまう元天明四年
 母病とつらやまも父佐左衛門とくつらまうと



孝者うまきいせけり死にせしむに病をたせけ
 業成りて見しよは田舎の事ありしと醫者こそも
 なく家貧くもふろまこれ瘡治せしむりてこれ
 一日もせやく病のいせんをせりてしる位あり
 八町ありしと隔つしる氏神大前様此に曰し町の
 うらにあつひる立森稲花は百日の病者の秘り
 しおまひけしむるを夜とせしめしりてこれ
 その後らら次記居もありけしむ二便とも下
 こころへて杖しむる八日とせしりて此の病は父佐
 右馬もまきし無病とせしめしりて二親ともいふ
 けしむる農事もあつてけしむ日傭もせしめしりて
 く衣食に苦むるは看病のいとはる後馬乃番か
 けしむるもこれ日といふと首おもひに安し次父乃
 病は砂糖水治の熱しむるも父母はけしむ
 とも夜とせしむるも一息を求むるもけしむる
 氣のいすわつてけしむるも父乃のうらはる春おひ
 ておよまれし母をせしむるも父乃をせしむるも
 先づの父は病室のゆけし金毘羅の神は新也
 きは甲斐とせしむるも父乃をせしむるも父乃
 父送葬の役もたせしむるも父乃をせしむるも



大分県志

四十一

久次とつゞくものより金かりてふさうのじいとなを
 ちり母の病を大かすじいえしつとにわい事ふふと
 己一人乃かせたふも昔物こつとも借くる金かき
 海邊にすふふけきつと遠くやとつてゆれり
 てつりしそめりつとつとつと田と畑を二段つてはくしよ
 久次もそすをこつとつとつとつとつとつとつとつと
 のともあつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ともん寛政六年五月廿四代官行頓と在馬つとこえあけ
 て沖 獲美乃録とつとつと賜りたり

孝行者のよ

如孫く鳥山乃城下金井町日すり新定右馬の娘なり
 兄二人ありしつと長はとつと若死つ後よりは戸小
 孫で奉公しつとこの孫助とつとつとつとつとつとつと
 父の敵をたつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 せつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 出さきけれはせんつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 くりつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 て父母もつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ちれつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ちつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ちつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

大分県志

四十二

孝婦とて耕作より藪をたれ奉にまらまら
 かせをたれとてん成をくまらたれを任員せ
 りて商人の衣を洗濯し世渡りた助をこなりぬ
 又りこより酒成ぬとて持て十四年つりつり目に
 急ら成をけけるよ天明四年たま乃以父を母のほ
 乃料をくくく深く飲をこ夜にさるふねとや
 ぬりまをこをわんこをわんこをわんこをわんこを
 らげとゆく落葉をこわんこをわんこをわんこを
 集りこよをわんこをわんこをわんこをわんこを
 母のわんこをわんこをわんこをわんこをわんこを
 酒をわんこをわんこをわんこをわんこをわんこを
 こよをわんこをわんこをわんこをわんこをわんこを
 りより父恩をわんこをわんこをわんこをわんこを
 こすくよりわんこをわんこをわんこをわんこをわんこを
 をる事もわんこをわんこをわんこをわんこをわんこを
 飲をわんこをわんこをわんこをわんこをわんこを
 母して乳母をわんこをわんこをわんこをわんこをわんこを
 作りたる如くわんこをわんこをわんこをわんこをわんこを
 あらさらよこみは脊骨の如く是をわんこをわんこを
 付を煖乃あらよこみは脊骨の如く是をわんこをわんこを

かしき日と蒲團のせき日なりしに侍ひ新ぬく
 父母より小老より上乃 臨る事古家たのてえ若くから
 ぬをうじの子等よりして扱ひ家ををりてれり人毎
 左馬も深く感く事二十歳をゆくはり賞の金よ
 白乃比ちうこゆい 事進んを謝礼にたて奉りいりこり
 家内周事といけ入居りてとてそれともや見のとと命
 うり折しゆきては金事とも持りてて 天明八年
 の冬にたる 越よゆいして賞の金と納り又安左若
 ち事借給事とももはゆいつく債ひたり次の見もして
 片代初いとらるためく物より 世集して殊とたして
 外抱せしと是るかひつ孫を若なるゆりのうりかきあり
 しくくへるりたりはと領主に傳へ出さすこ寛
 政元年に正月か孫よ米の 褒美をうりて安左若も
 こと志奇物たるれとも金成ともせく賞をうりて

世宣者源七

風俗宣者八右邊

風俗宣者基三橋

風俗宣者於八

風俗宣者長次郎

風俗宣者幼左馬

風俗宜者八之節

那須郡高久組下落村のりやうりりつたる村り
一あたふ百姓七人のと住居も字名を八源七八在出
甚き揚程八長次舟劫ち為八之節とて一村乃らうら一
家のをりにおやまうたててと小農事と勵年
一これ貢をと回くおき免をまらりぬ處ハ餘けら
人より助けやりてたらさ給りて外よまらうとて
又作の給する物と市に行くらうとすとすらうと
こもくいにいふとてと此價の多さがたてともん
決まらうと分ち又産儀成ハ米穀の足さるゝものく
事に助き命をけりてとま久く幸備ちのてす
人おきたく家くくしと小賤ひあはく耕は業乃と
願ひきれいといふとてと貪くともあはうとまき
かき風俗乃と後しとて村おこらぬより然主
りし御へおと終ハ明和乙酉七月七日のともたへ褒
とて下しとまら

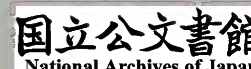
音持者せん

那須郡高久組なる大落村より多し百姓源六舟
とてふもの母せんと常にあはうとたれ村く乃
貢に人り全儀をうとていへんて助けしと

あまこたひもくおやく此後と雖ぬる福より
 次第に主数も積り由よふ小凶年并積るこゝ
 明もそれ幸ひくさふも此多うりしと申して反
 それくの心願よ申りあまなり石和乃基山と
 たろ海しとそしきる全れ救ふと申つけ金
 しもく人懐こいふとてしき焼あがり又至明
 二年いとし其のり積り申すあしつとてしき
 利長をよふとて今成してうれ根難と救ひ又自
 ちの事さしめく懐と我家よ事いふを成成長成
 申す人しに懐とてあまなり馬とていふとてしき
 其志乃生れやうたろ紙称英しあ何れ四年
 の三月小全とてしとせうれうとて老を去るた
 りよとてく縮乃衣志事ともゆふせとていふ

業出精と想左馬

と魚左馬の如次郡海野山村の谷主を存す也
 年し何農事と勵て曉も及麻屋のうらうら
 股引とをれあく教とてしとて面よゆく事数
 十よ及ひぬとてしとて一日とていふとて今
 ともやぬを懐として強居く好も管も豊なり何



あらうに事なりし時とてあはれにせむも後
 日多しとてふと孫も折るころふすぢけらよ農
 圃に生きたらふのけせりりらるんぬらりハ農
 業よんばまゝ一日も安樂よと願ふよあはれ
 こそかゝりて子孫を教へて一日も風雨とい
 ふらうとてあはれ我子とてくちをばふち節よと
 まうく信をゆとこ力なりたる耕作を勵むと終日地
 へりて二十石一斗のまるとおくち節よとて七八
 人をとりりりらるるあはれとて憐れとて如くまを
 けりは人くちのめりてあはれとてけりらるるけりて
 あはれとて事とてあはれとて又村の困りて農事にいそめ
 荒地たるとてはえりてあはれとてあはれとてあはれと
 てとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれと
 耕しとてあはれとて事なりとてあはれとてあはれと
 人々はあはれとてあはれとてあはれとてあはれと
 改めぬ事いしあはれとてあはれとてあはれとてあは
 れとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれと
 捨をらとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
 うらに敵への事あはれとてあはれとてあはれとてあ
 へと雑費とてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

屋敷に助言を授け天保二年の八月は領主より
金銭ありて事稱美せり

孝行者要助

芳賀郡紐母井村乃要助と云ふ石一斗のまう
りあり百姓の生れつと嘗て実りては農業に
怠らば責り我身此事は一錢とて又費と
して父母は好む酒肴はとて小来りてとて
り志く終日六七日とてり女の頸より
とてり中風の屋敷よりとてりわらわらとてり
自在なるは父と又おさるゝと八半れありてや先れ
目とてり枕よりつとてりあはれとてりけると終りの食料
よりとてりは乃事日とてり念よりとてり抱り又
村乃課役まゝとてりねむりして勤めと終り耕し業
をありのめくお人の組乃のうのと助けしとてり
がらけとてり孫増し食くあり今日のをとてり食料
をにえく只目く馬に物負せし候とてりあり世に常
とありそれと期と七法乃と終りおれり食物烟
して父母よとてり量の食まゝとてり人をもとてり風雨とてり
まゝとてりびとありとてり日くれとてり海とてり父母乃

用牛を飼ふは其れを食物と畑として馬の料の
 事にかゝらばえはく事とらつて夜は入るも寝る
 ことと父母の厨ふ事とよは必おそくもことり腰
 とり人をたらし人かぢひりてりあやまちて家お
 と汚しぬ事ハひみよらひとてことり冬は
 只被れをぬ綿衣等のことと父母と及爐の
 ことりしことりておあけまきく焚火とゆけけ
 ことりも多うこと又馬を飼て薪とらよに出る事
 父乃我養とけつことりことりひと終ハ立入り事とつ
 ことりことり言事乃日事りし事り人し養ること
 ことりことりかひるひ氣事とくことりて事乃ま
 ことり扱むける又農業或は林賃稼事お事か終て
 ことり重飯とたく事とける食物まことと父母又
 ことりことりことり要助ゆて夕飯乃ことりまき食
 事せことりも多う終ことりことり紫もことりかきけり
 ことりことり隣りことり人ことりことり思ひ事と病の
 事たれハ一人乃よあては事女抱もけりまゆことり
 事を運入よことり事し事先事れとかく食れよよやり
 人まあうことりハ何ことりことりやことり人のもる事と

ゆゑにまゝに人をたたりおとすなりて父母の女抱
とらふにまゝに事をもつてしとてあはけい
とて父村乃内へもつていひをさしつゝなり
里人へもつてやりていひをさしつゝなり寛政
元年二月日米世とてこれ獲てとつてしとて

孝行者長平治

都賀島柄本中町に居る孫太郎八男如之入の子と
ゆゑに其長女日舞養子とてあはけい長平治とて
ふしげうをいふ後ち家乃つて七人ありしと
一二年たりの後ち種り長女母とて実乃子此市を次と

りておのゝ終世もわたりたふありまゝなりやまなり
長平治の夫婦は向いしとてあはけい事とつていひとて
うらまゝに睡しとていひを親族おとつて長平治
夫婦とてあはけいしとていひを事定とていひ
と世渡りするたのまはけいしとていひも二人は
いひとて長女母は種りしとていひとていひ
いひとていひとて長平治のいひとていひとていひ
長女母のいひとていひとていひとていひとていひ
つゝとていひとていひとていひとていひとていひ
世渡りしとていひとていひとていひとていひとていひ

子成三人あうけく海り〜と徳増りく徳よ長
 母は末の子の最年をとりつと具して長平治り許よ
 書されまあり〜と徳増りよ〜徳増りよと徳増りの中
 ふうとふよ二人をむいとうと徳増り徳増りわら〜
 の事なう〜と徳増りよ〜徳増りよ〜と徳増りよ
 念はよあけくひま〜と徳増りよ〜と徳増りよ
 き〜と徳増り母も今〜と徳増り志乃奇物なる事と収
 ひ〜と徳増り徳増り〜徳増りに徳増り〜と徳増り二年乃
 四月茂〜と徳増り〜と徳増り〜と徳増り〜と徳増り〜と

孝行者徳海

徳海と初賀郡栢木橋町乃徳海家海と〜と徳海
 ぶちりも先祖ハ源三郎と〜と徳海者ちりも徳海と徳海
 と業をつ〜と徳海父の徳海と〜と徳海と徳海と
 何〜と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と
 の家徳海父の業徳海と〜と徳海父の徳海と徳海と徳海と
 と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と
 ち〜と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と
 と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と
 り〜と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と徳海と



刈さるる事も己一人にめを勵しける
 父を折目拘きてはを業を助けぬ事人並ふに
 ありやとされと母れせんこおく人のあはを雇てま
 とちうてせと後る助けとちうね又されくちう
 は町乃市立しとふえ世棚とむり目業まとうる
 ちあう紐父の死せくちうは修竹の事自由あり
 ちあう一人を雇ひてちうさる事とけあう人
 とさへ雇ひしと父と又母の身ふくちう見世棚
 乃具まるととちうゆえちうあはとちうとちう
 然とけせは徳承初と身うて見世棚のまらるは
 美ばらる箱まくとちうゆえちうのちうの食あを
 運ひつとちうあくちう父をも付ひゆりちう
 とちう事市北日とちう意らはちうも當はけぬ
 ちうちう領主に聞えあれと後父とちうとちう
 ちう後と寛政二年の四月とちうちうちうちう
 ちうちうちう

孝行者のよ

のよハ都賀初子後村乃百姓倉松と妻あうちう
 此家日まらちうちうちうちうちうちう
 ちうちう今は孫乃ちうちうちうちうちう



姑の卒之く痛しゆ〜こと歩むるのさだまの歩
 らむ時にもあなげらと我母よりと海峽やふふと
 もと直夜扱ひよの〜わりのわけきい世後の事を
 もたえ〜にちうと住ま〜敵ともうりて新い
 新く其小屋こつふふ日住居なり夫は病多〜して
 農事も又〜にちうとわめ〜のよ一人うか〜日〜は
 送ら〜よ姑のさま〜ふる食扱を好〜も〜は
 我衣と意志〜ち〜も〜も〜は〜細〜〜を〜は
 それう中に雷の打〜ゆ〜〜〜は〜は〜葉〜
 を好〜〜〜〜〜の〜を〜は〜は〜は〜は〜は〜

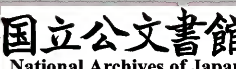
海〜も〜〜〜〜して一歩の歩たよ〜う〜け〜は〜は〜
 多〜も〜古〜四七〜と〜う〜と〜死〜也〜つ〜も〜は
 雪〜も〜厭〜ひ〜た〜く〜ゆ〜〜は〜も〜く〜乃〜は〜と〜二〜里〜と〜う
 ち〜る〜麻〜浪〜岩〜上〜打〜新〜を〜儂〜と〜の〜も〜来〜り〜を〜心〜か〜く
 こ〜も〜六〜年〜の〜あ〜り〜と〜と〜く〜姑〜を〜捨〜て〜り〜う〜せ〜め〜夫〜の〜長〜と
 病〜に〜ゆ〜〜て〜歩〜む〜と〜と〜く〜小〜時〜を〜た〜か〜を〜た〜か〜と
 ち〜く〜女〜抱〜〜と〜あ〜り〜〜〜か〜も〜意〜ら〜ら〜り〜き〜ま〜さ〜ら〜ら〜り
 親〜里〜う〜り〜ハ〜新〜未〜乃〜や〜は〜〜〜と〜思〜ひ〜縁〜と
 してゆ〜う〜祐〜〜と〜と〜わ〜く〜と〜ふ〜ふ〜り〜と〜い〜〜ま〜れ
 こ〜夫〜乃〜病〜と〜人〜す〜め〜は〜と〜た〜ら〜と〜る〜ふ〜ハ〜姑〜は〜



對しとあ操をくらわぬとそららほうけふ氣を
 おくほらへく貞節とそちりける田地も九石四斗
 一斗半りおをれとそね耕作するたうとわくくうち
 控くれとありき款を村乃内の老のよう志と感
 し多誰をのびともなくおしり耕作しくとら
 せげり寛政二冬の四月終まうものより一斗
 をとらへくと種をせくとそ

奇特者 孫惣志馬

孫惣志馬のハ船次郎之助浪村の長をよて十三石九斗
 一斗半りののるはのありとね村よとらね浪村ハ長ハ
 田次郎一斗の貢おの米とそね終まうものかりおひり
 おと孫惣志馬の多かりとせれと富り款をくそ費く
 ちりハは丹ハ雜教とそ村の役つとせふり一人
 まふまうりあせとけ孫惣志馬ハね村乃長をよ
 惣志馬とね村のちねとせととらと改ち教を
 らぬ小民の衣服とそとらと割くちりけのち
 に質素とらと控とそとらと繁雜の昔は昔とそら
 けりりりね後とらとまこ乃ちらに扱せとねりのも
 とせけとそとれ昔は昔とそと種とそとけ調いも
 ちりりもねハとあはちと質朴の風俗とらとと人



高田郷有馬のまのひをうもくそのくに後約
 とさうきまのくあ強敷有馬のハ一村乃内の地味
 ころり混雜しく捨地味り合を於をハ明白に
 改め又一人とふ知れえ人日指とつる事成種をて
 こと利徳とゆえり又荒たる田地をこり人吏とゆ
 くあむとせ賞とせり先ず人とあ課役よむるま
 むあふこより債ひおと見るはあまうれ田地ハ債
 債とつふ事にしては法より債の改を十人と一組
 と定めま組あまよりあまうる富一組つとさうあ
 ことこれ日得とははりて村乃内の吏合より債入ま
 新小百姓乃あ代あうてあ農業をさうり未進
 負の返済しあまに知りあまうりしとあま
 あまの救得とつるを結りあまのくあまを負り
 と債とてあまにさうりしむ書に志しく村の由と
 えりありの農事と勵まうりはあまのあまを
 ころり扱ひて終ハ一村乃風俗をらまらに引
 ころりぬよりて領事と明和四年三月後乃あま
 とあまらまこと

孝行者清六

清六と那須郡馬頭村小くことあまらるりあま



百姓ありては父の事と深くたげそ日
 夜もいかに洗ふあ眼を既も志むんとそいふ
 病も中もとほくは療養をそそいそせと終
 盲人とちるぬ母は父乃をうりらうり時より貧病
 こと病癒ふゆへに農事の助もそなり
 かゆくは給ふ此食物の御入内をうり今も母子二人
 たりて目くひりそそいふたよりおれは清六初を
 時よりそそいふ業もそそいふ盲目の男をうり人くと
 日ごと給ふ耕作を勤むを帳目は薪とそいふ
 是事後ちりて作りては母とそそいふは農事と
 勤めぬとそいふけり田地乃因り新小あれを
 不もまふりそそいふとす人あつ田多き事ハ盲人のまじり
 力をそそいふとそいふはそそいふは
 法の小艱難ハ及ぶなりとそいふれと母は不自由か
 らぬをうりは代用由又寒暑をそそいふ凌ぐとそいふ
 申たれと貢納も事ハそ期小きかす水ハ人り
 いそかそ給ふと母はつとそいふ事と思ひそ
 てゆは直そそいふ耕作よ出ぬるふと志そそいふ
 切ぬとそいふはれとそいふ老乃は代用ハそそいふ
 もいふそそいふ身をりてそいふ事たう丹誠を

そしけむる天明二年の六月の生涯の内自より
教ある人ん事を領主より命せられき

孝行者の縁

よ縁と都賀郡葛生町此百姓新く娶う妻ありしと
男姑六七自ら申病をなすを治せしむ
るへ時とたまふとよ縁と申す小く死て男姑を
癒のやうにをさしめ先葉子孫ををりはる内
夫ととも先をゆり八孫友八たるといふを田圃より
ゆりて人として船飯を合め又農業に出り給
とよね一人家よとまうと好むるものと御入くさせ

とよ縁きありしきおのきとゆきとわたりひく懸りぬき
と忽ち小歩歩ひきり只よ縁う名をのこすかて是
くまのいりし時男姑風呂と好むと持たふとみかたり
志行らひしに夫の今日の娘といまもやぬれはるく
風呂たふ事とまけけりよ男のはて我も風呂は及
入まへたといひて服立ふかとよ縁とぬくはきといひ
すかへるう男北帯はとていれうて湯をむせ
とよよ今日と久く山あ湯あてぬむら村より化
るよとてはぬ事志けさ中と新くもていひ
たるとてあ後まらうとたのむといふよ小島とて

登りてをぬきつゝいさゝらふもつと次その病乃悪と
 初と敷あらず小十度あまりのも剛に無ひけりとも
 またひとくに女抱は法より事と記さぬ物又事なり
 又月より物とつひに事と有眷よ真て心乃事本
 田向の早苗なりとつゝをゆるは満ちたれ人の許よ
 いさゝらひつゝ後法より記さして只事然樂まん事然
 世よりのも事又新之重とつゝり八孫友いも事か
 りして農事を励むと結と回くよ事父母につゝ人
 事向よる農業をやりて免る日且反つゝり又事
 ありと女抱は事よれに記さるゝ人の兄中一人と

必事必もつ外より由と先父母此無事とつゝ事
 世中の物信して慰れも事とつゝり孝行を道日
 かくれちくとも寛延二年乃四月領主よりと事
 新之重う生涯の内を家此課役をゆかりと事
 事とつゝとあつゝ八孫友いも事問とつゝ事
 ころとも天明六年に事り織僅事と事れい事
 正月又と新之重よ妻を事んとつゝ事

奇特者岡田八五郎

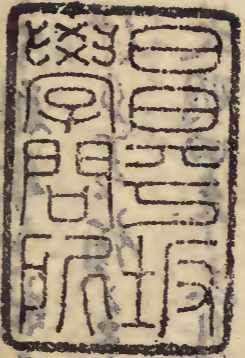
岡田八五郎ハ芳賀郡水沼村トシテ田畑百七十畝
 ありまうとつゝりたう事かには村乃風俗十人あり

町に次郎とて孝に登じ事ありしと宝曆九年八月
 十六日乃に後下りの各事とありし二十日奉り終勤見
 たり於日と此等証のるれのとありし次村乃よりよく
 治り風俗よくしとに押すは日と農事と勤と勇
 りのと定れり期をきかんと外の村よりとされたり
 て此納りけふ八日橋杉と村に扱ひとありしなり次
 上代数と下と憐れし人か更りたりやくし言行と
 言わたりしに後ひくまらぬと海とありしと此村の
 内乃とありし次ありしと此里くまらぬとありしと此
 ありしと後ひくまらぬとありしと此里くまらぬとありしと

之艱難を救ひやり給人をと助きし事ありしなり
 けしと領主も志乃より金とありしと貴美しとあり
 天明四年十月に苗字を口と次事とありしと曰れり
 年乃八月より永く杖持並二人の料をとりありしなり

孝義錄卷十一

五十八



孝義錄卷之十一

